

学校に行きづらいと思った原因は・・・

①先生との関係、②授業が合わない、③価値観が古いなど学校のシステムが合わないが上位を占める

不登校の子どもが一番に望んでいるのは不登校への偏見をなくすること

全国的にも、市内でも不登校児が増えています。様々な施策を講じていますがなかなか効果は見えません。市は来年度に中央小学校の校舎の一部を使って不登校対策に重点を置いた「学びの多様化学校」を開設します。一般の学校と比べカリキュラムを弾力化、授業数を減らし、自由な学びや居場所もつくります。こうした取り組みには期待したいと思いますが、不登校をたくさん生み出す問題にメスをいれなければなりません。

日本共産党の提案

- ①子どもが安心して休める権利の保障。
- ②子どもと親の相談窓口設置。
- ③学校復帰を前提にしない公的な子どもの居場所の整備。
- ④学校以外の学びの場、居場所などへの公的支援と学校と同等の支援水準を目指す。
- ⑤親の会への公的支援。
- ⑥子どもと親を学校以外の学習の場などへ追いやらないこと。
- ⑦過度の競争と管理教育の是正。



私は教育の専門家ではありませんが私の思いを書きます。皆さんからの率直なご意見をお待ちしています。

学校復帰が解決ではない

学校に行けなくなったら、子どもには「学校を休む権利」があります。体調を崩して、無理して学校に通わなくてもいいと思います。そして、そのことを社会が温かく受け入れてほしいと考えます。学校に行けないことを「悪い」と思ってしまいがちの子どもを追いつめるようなことがあってはなりません。



不登校は「心の傷」を直すため家庭に癒しの場を求めている姿

不登校は行き過ぎた管理教育と競争教育で子どもたちの心が傷つき、学校に行けないほどにダメージを負った姿です。だから学校に行けずに家にとどまろうとします。家庭に原因があったら、家に居続けるはずはありません。保健室登校もありますが、それすらできなくなっています。



を「なぜできなかったか？」と先生と子どもが一緒に考え、できるようになることが教育の本質と考えているからです。そのため一クラスの子どもの数は二五人以下です。

日本はどうでしょう？テストは点数を付け、「できる子」と「できない子」に分ける役割をしています。それが進学と結びつき、「楽しくなくて我慢して勉強しないと将来幸せになれないぞ」と子どもたちを追いたてています。「なんか違う」と感じてても、子どもはもちろん、先生も学校のルールに縛られています。

こうした「いまの学校のシステム」そのものが不登校を増やしています。

教育の目的は「人格の完成」

だからこそ、一クラスの人数を減らし、先生の多忙化を改善、教育内容も精選して詰め込み教育を改め、子どもたちが「成長できる」「わかるようになった」と実感のもてる教育に切りかえることが大事ではないでしょうか。

原因の多くは学校のシステム

世界一の学力と言われるフィリピンでもテストをしますが、点数付けも通信簿ありません。できなかった問題

村上千枝しげのつくったショート動画に繋がります

